



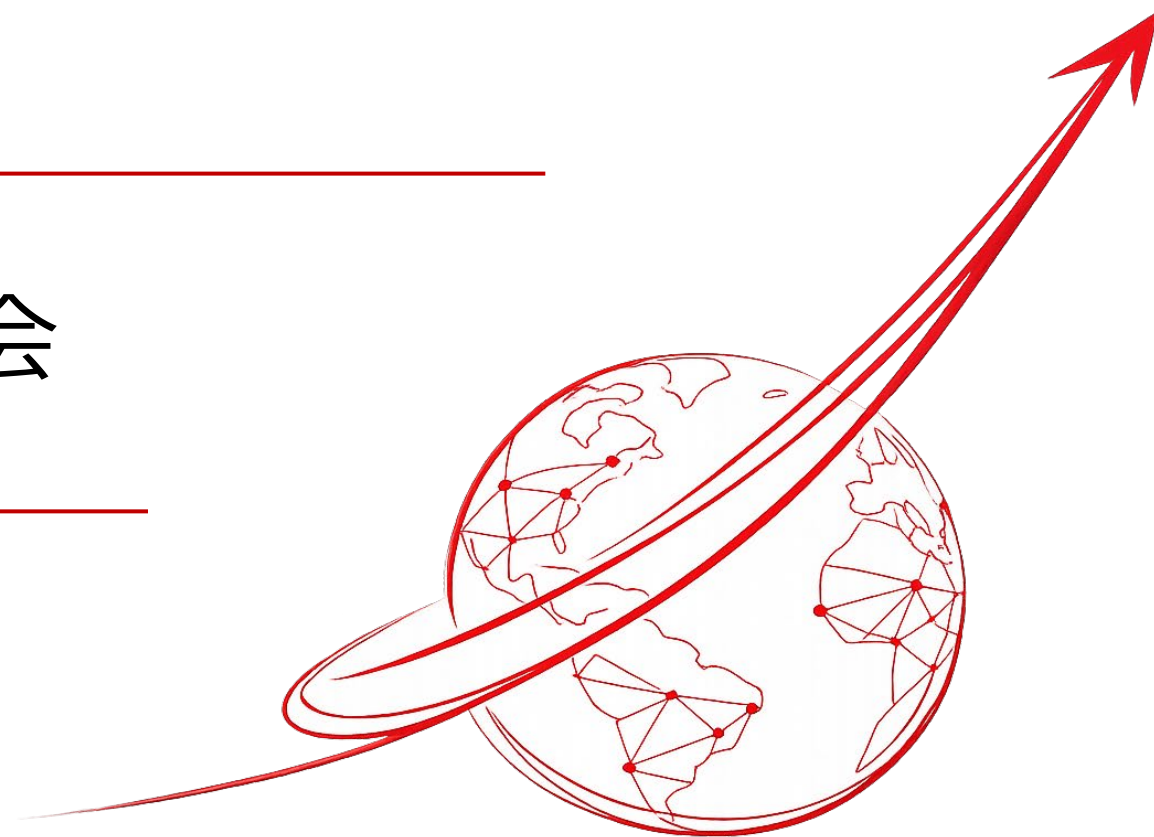
Creating for the Future

いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2026年3月期 決算説明会

2026年5月18日

SWCC株式会社



東証プライム 5805

目次

- 1 2025年度 決算概要
- 2 2026年度 業績予想

1 2025年度決算概要

2025年度 決算総括

電力インフラおよび通信ケーブル事業の好調な業績とTOTOKUグループインにより、**前年度比増収・増益。**

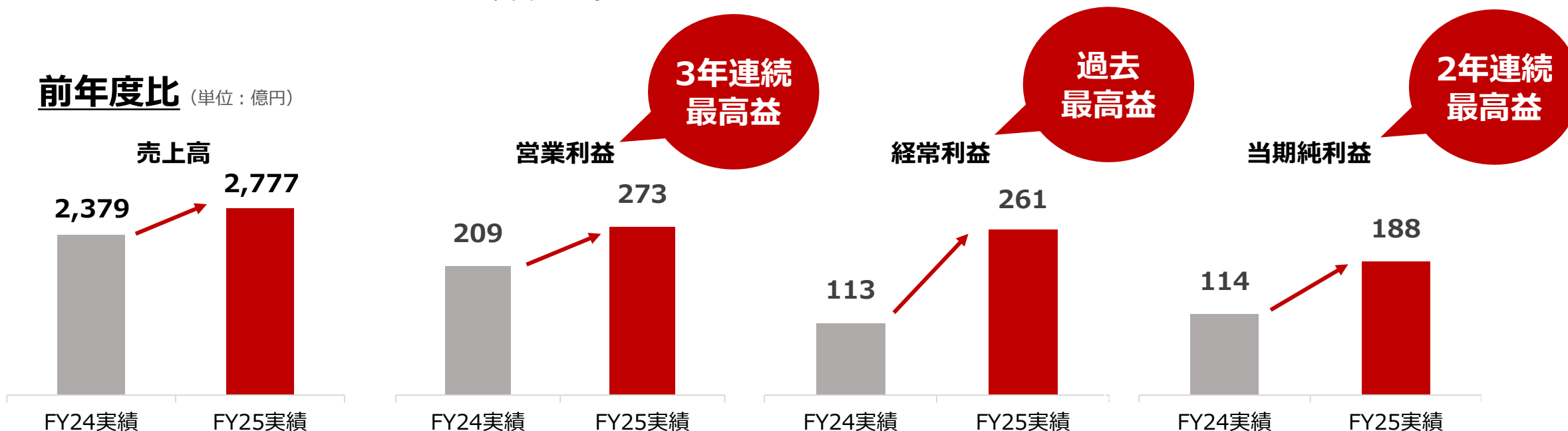
エネルギー・インフラ事業

電力インフラ向けは、旺盛な需要を捉え受注好調。
建設関連向けは想定どおり減収も、銅価急騰による一時的利益により増益。
前年度比**増収・増益。**

通信・コンポーネツ事業

通信は、米国データセンター向けにe-Ribbon®が大幅拡大。
半導体市況が活況で、コンタクトプローブ等の半導体検査装置関連製品の売上が増加。
前年度比**増収・増益。**

前年度比 (単位：億円)



2025年度 連結業績 P/L

**中期経営計画「Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」を一年前倒しで達成。
従来の期末配当予想 110円に、23円増配。**

(単位：億円)	2024年度 実績	2025年度 実績	対前年増減額	対前年増減率	FY22~26中計 FY26目標 (2025.2.7発表)
売上高	2,379	2,777	399	16.8%	—
営業利益	209	273	64	30.5%	240
営業利益率	8.8%	9.8%	1.0pt	—	—
経常利益	113	261	149	131.8%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	114	188	74	65.3%	—
1株当たり配当 (円)	136円	223円	87円	64.0%	180円
ROE	14.3%	20.7%	6.4pt	—	14%以上
ROIC	11.9%	13.6%	1.7pt	—	10%以上

期末
+23円
増配

中計前倒し達成

2025年度 増減要因 (前年度比)

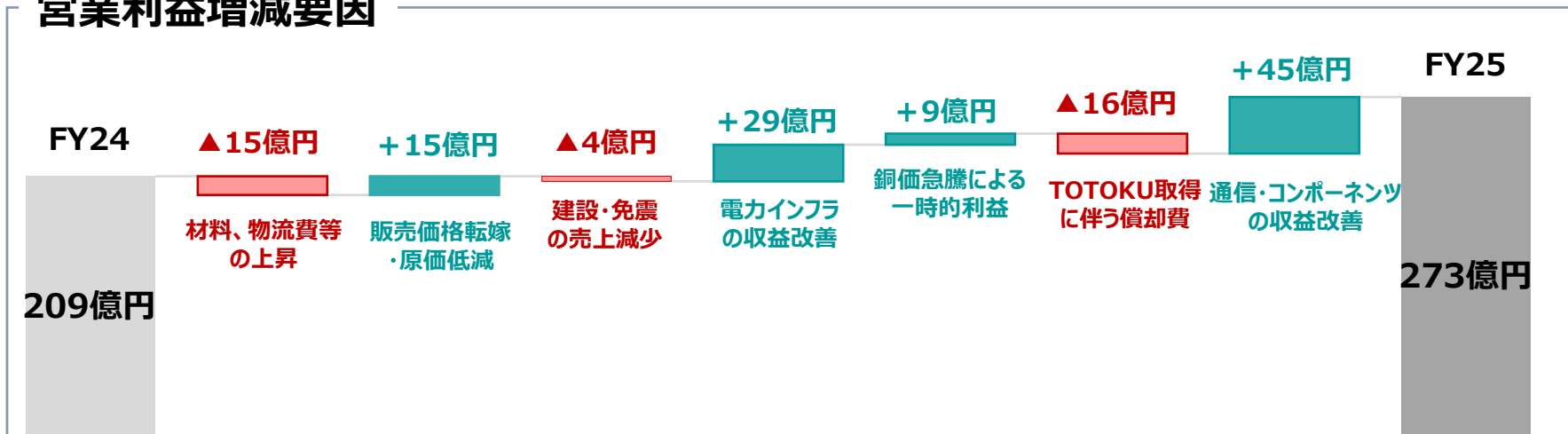
売上高増減要因



【増減要因】

1. 売上高
銅価格の高騰およびTOTOKUがグループインした通信・コンポーネツ事業の売上増により**前年度比増収**。

営業利益増減要因



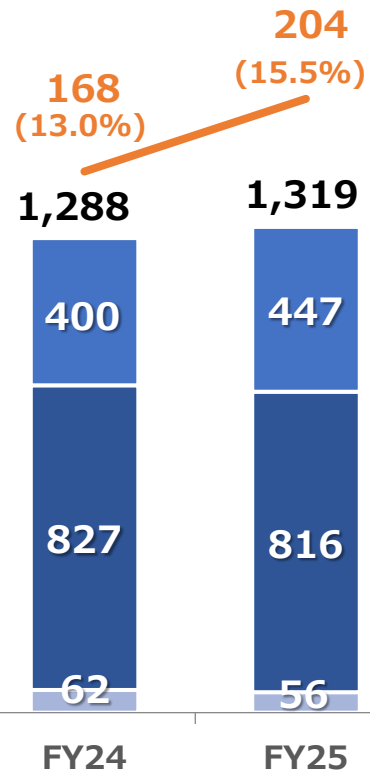
2. 営業利益
コスト上昇については、販売価格転嫁と原価低減でカバー。**下期の銅価急騰による一時的利益増**。電力インフラと通信・コンポーネツの収益改善により**前年度比増益**。

2025年度 通期業績 売上構成

エネルギー・インフラ事業

- 電力インフラ
- 建設関連
- 免震・その他
- 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円)

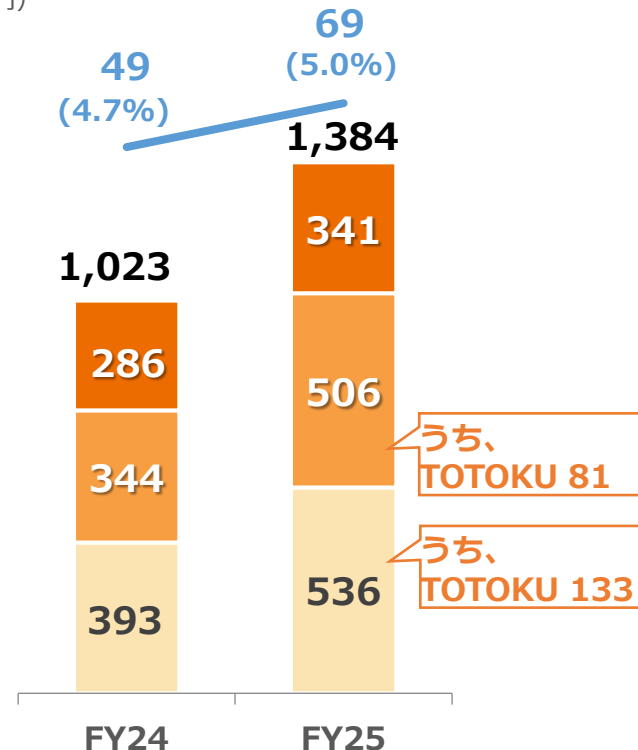


ROIC(%) 19.3% 27.2%

通信・コンポーネツ事業

- 通信ケーブル
- モビリティ・半導体用
- 産業用
- 営業利益 () 営業利益率

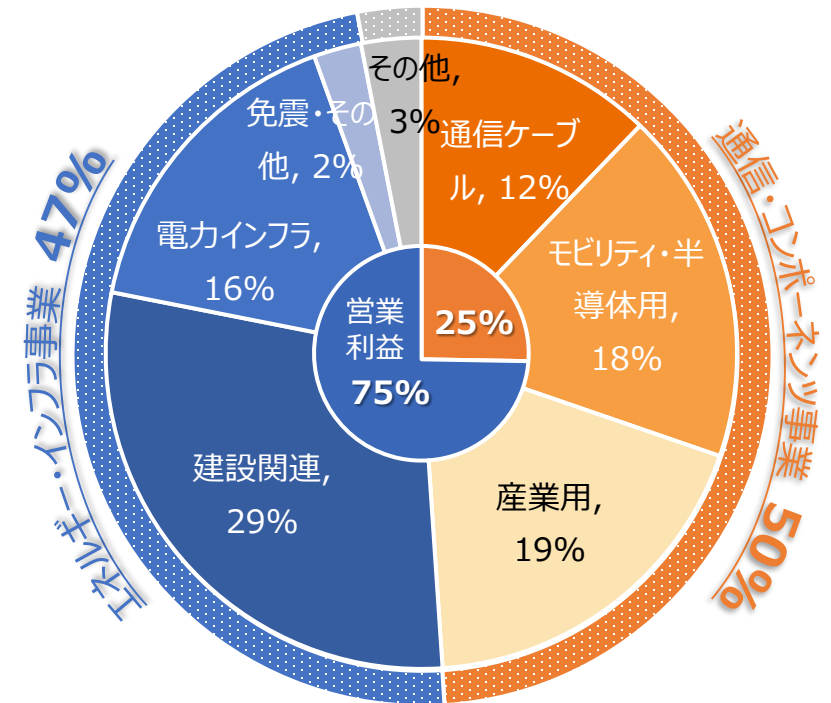
(単位：億円)



8.2% 7.9%

※TOTOKU取得のれん償却費を含む

FY25 セグメント別 構成比率

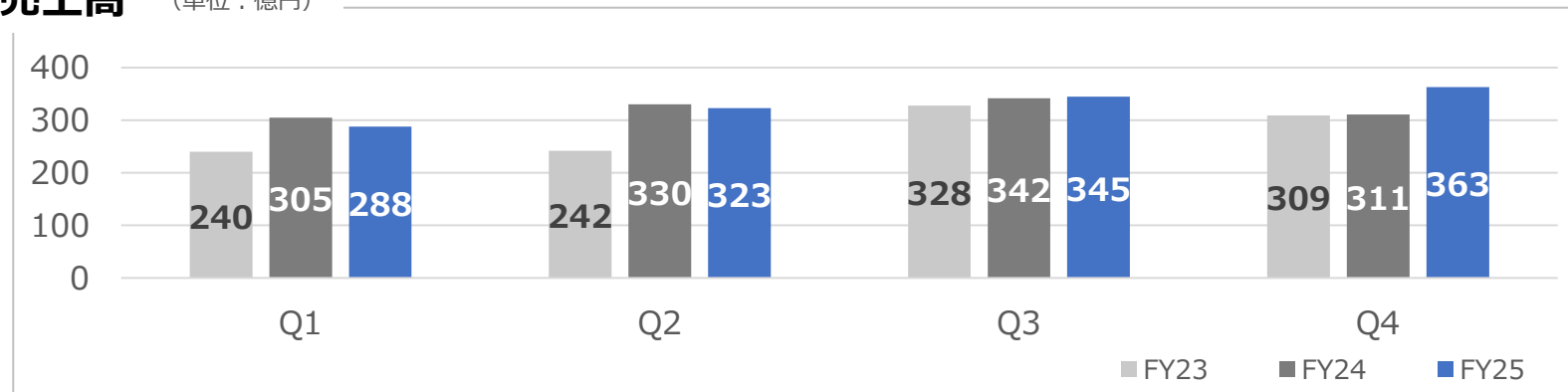


外側から順にセグメント別売上高、
サブセグメント別売上高、
セグメント別営業利益

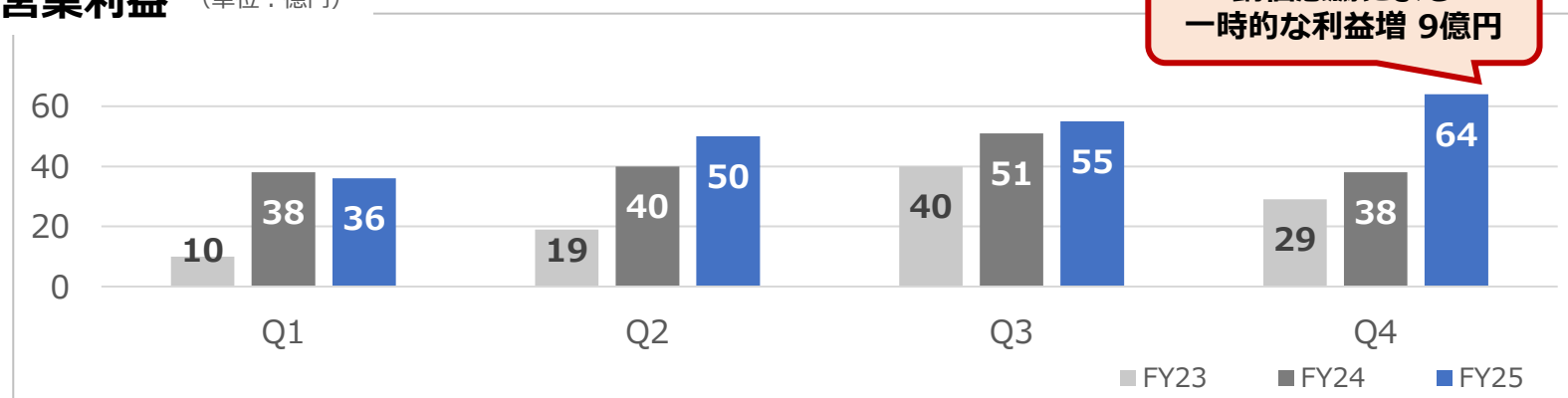
2025年度 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

電力インフラは、戦略製品SICONEX®の増産投資が旺盛な需要を捉え受注好調。建設関連は想定どおり減収も、銅価急騰による一時的利益により増益。前年度比増収・増益。

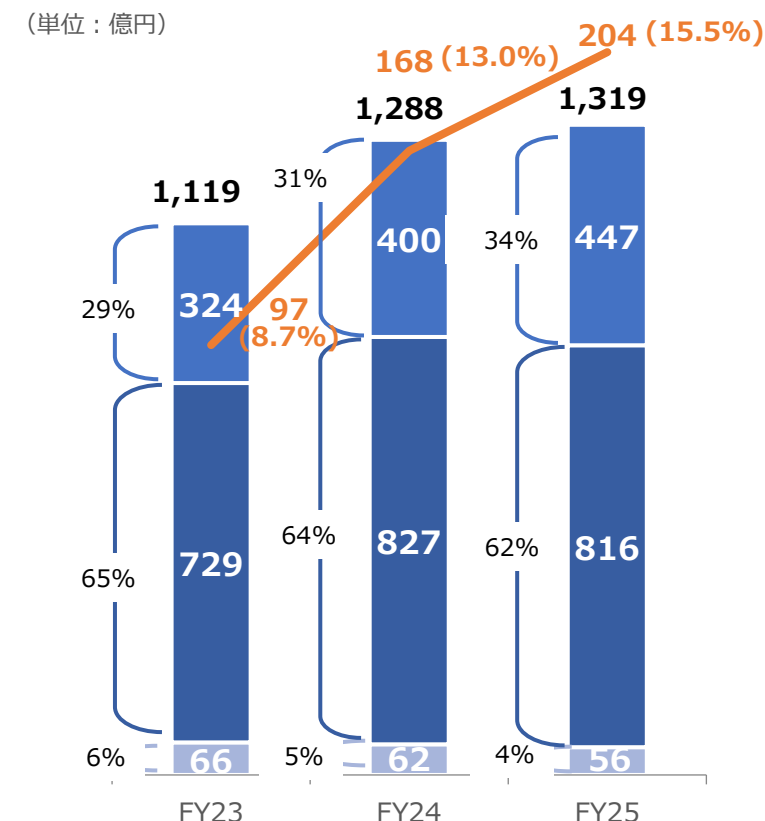
売上高 (単位：億円)



営業利益 (単位：億円)



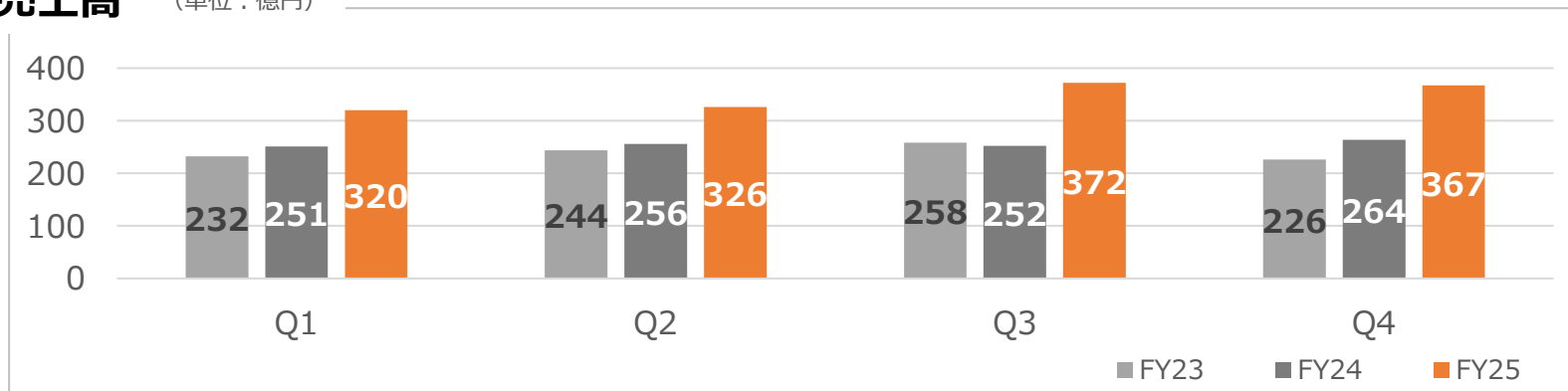
電力インフラ 建設関連
免震・その他 営業利益 () 営業利益率



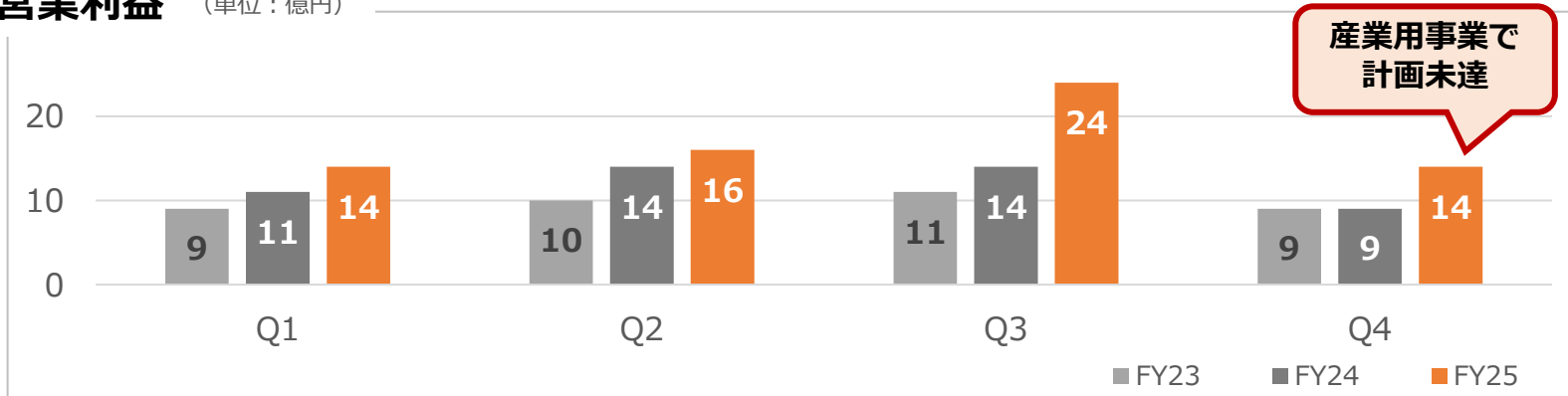
2025年度 セグメント業績 通信・コンポーネンツ事業

通信は、米国AIデータセンター向けにe-Ribbon®の売上が下期から急拡大。TOTOKUグループインにより売上拡大も、産業用が不調。**前年度比増収・増益。**

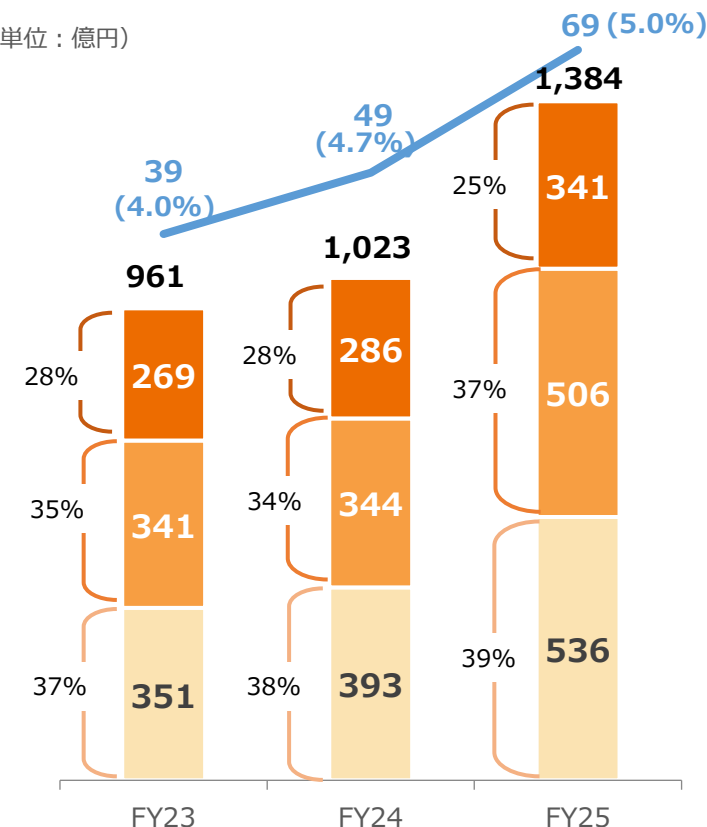
売上高 (単位：億円)



営業利益 (単位：億円)



■ 通信ケーブル ■ モビリティ・半導体用
■ 産業用 — 営業利益 () 営業利益率
 (単位：億円)



2025年度 連結業績 B/S (前期末比較)

(単位：億円)	2024年度末	2025年度末	増減
資産合計	2,110	2,069	▲41
現預金	194	108	▲87
売上債権	542	579	36
棚卸資産	330	343	13
固定資産	1,005	1,005	0
負債合計	1,188	1,009	▲180
仕入債務	281	292	11
有利子負債	547	400	▲147
純資産合計	921	1,060	139
自己資本	837	984	147
自己資本比率(%)	39.7	47.6	7.9pt
DEレシオ(%)	65.4	40.7	▲24.7pt

【現預金】

TOTOKUグループインによる前年度末に一時的に増加した現預金の適正化により削減

【運転資本】

銅価高騰による売上債権および棚卸資産増

【有利子負債】

TOTOKUグループインにより増加した借入金を圧縮

【自己資本比率】

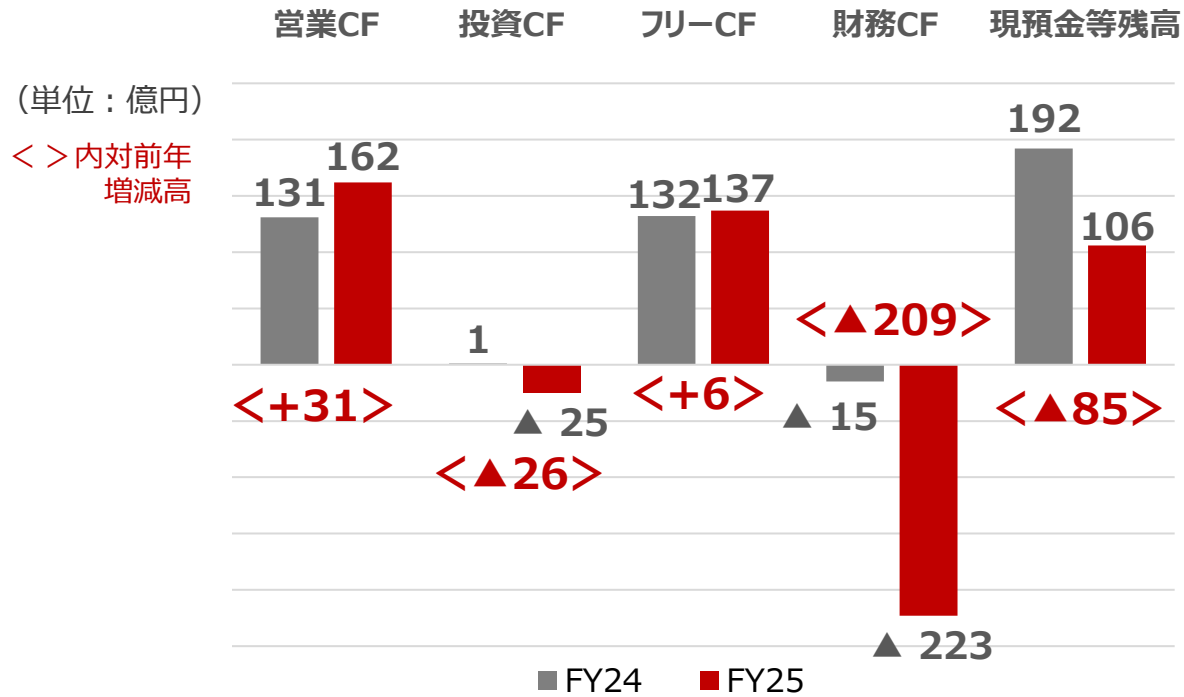
業績好調により、前期末対比7.9pt増

【DEレシオ】

有利子負債の削減および利益蓄積による自己資本の増加により、前期末対比24.7pt減

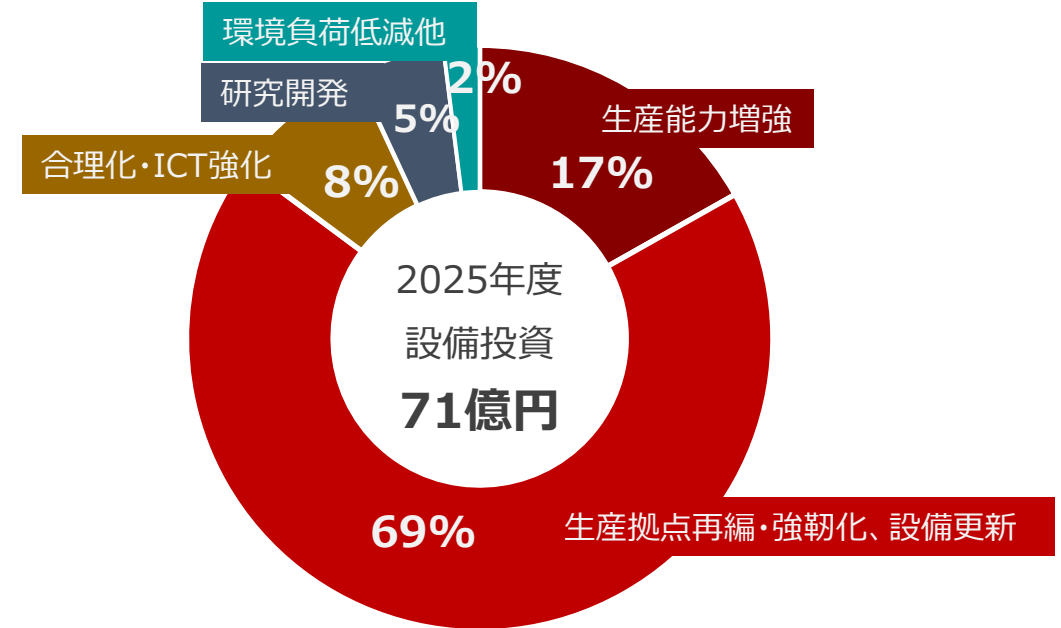
2025年度 連結業績CFと設備投資

< 連結キャッシュフロー >



2025年度の営業CFは法人税等の支払増や運転資金増となるも、利益増により前年度比31億円プラスの162億円
FCF増と現預金削減により、昨年度を上回る配当や有利子負債削減を実行

< 設備投資 >



セグメント別内訳

エネルギー・インフラ事業	16億円
通信・コンポーネツ事業	22億円
その他※	33億円

※新厚生棟および事務所の建設費15億円を含む

2 2026年度業績予想

中期経営計画 Transformation for Growth SWCC 2030

収益性

営業利益

**FY2030
(中計目標)**

400億円以上※
※インオーガニック成長除く

効率性

ROE

20%以上

ROIC

15%以上

株主還元

配当金
(連結配当性向/DOE)

380円以上
(40%以上/5%以上)

安定性

DEレシオ

40~60%

純資産

1,500億円以上

外部格付

A

中期経営計画 **2030**
**Transformation
for Growth**

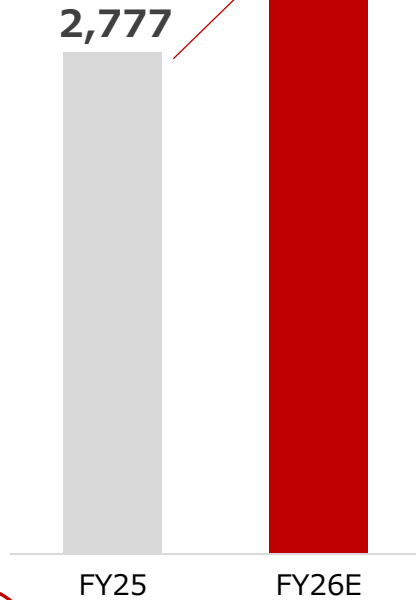
構造改革に加え、成長を加速させる
ROIC経営2.0へと深化
キャッシュ・フローの最大化
成長に向けた変革の継続

2026年度 業績計画

新中期経営計画初年度の2026年度は、成長事業の売上拡大により**増収・増益を計画**。
配当金は2025年度比**27円増配**し、**通期250円**の予定。

売上高

(億円) **17%増収**
3,250

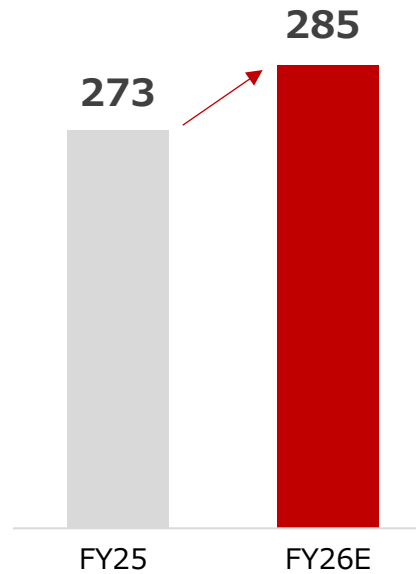


銅建値
(円/kg)

1,695 2,100

営業利益

(億円) **4.3%増益**



経常利益

279億円 (前年度対比6.8%増)

親会社株主に帰属する 当期純利益

185億円 (前年度対比▲1.8%減)

配当/配当性向

250円/40% (前年度対比27円の増配)

中間:110円 期末:140円 通期 250円

ROIC

13.8%(前年度対比0.3pt増)

2026年度 事業環境認識

中東情勢

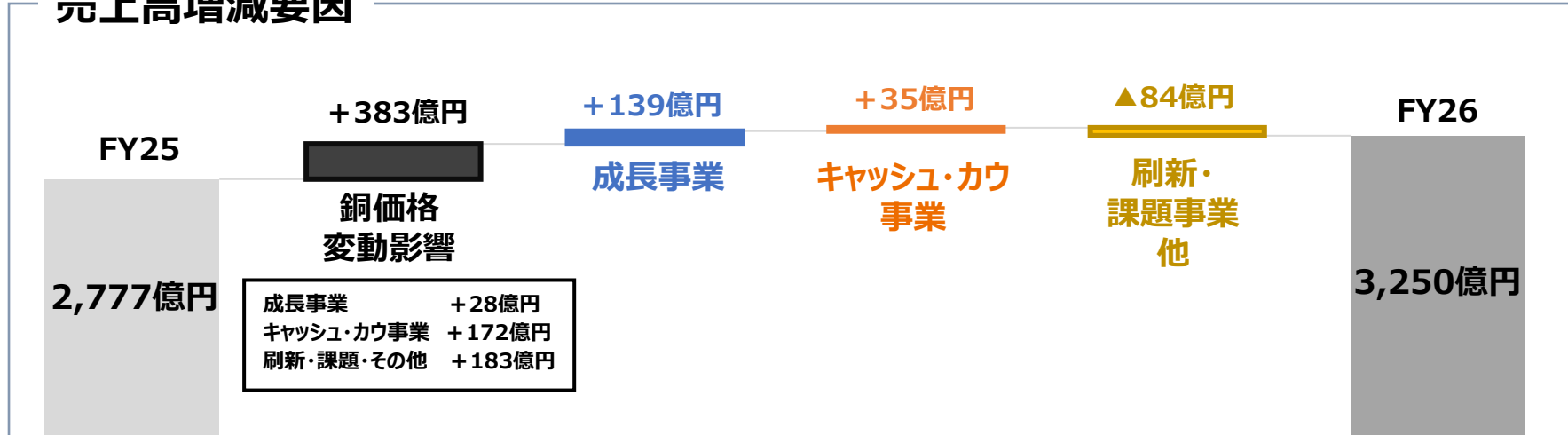
中東情勢緊迫化により世界経済の不確実性が継続。
 エネルギーおよび原材料価格の高騰やサプライチェーンの混乱を懸念。なかでもケーブル用プラスチック材料への影響を注視。
 原材料価格等の高騰は、販売価格への転嫁に取り組むが、既契約分への適用が一部困難なことを想定し、
 一定の業績への影響を織り込み済。
 一方、サプライチェーンの混乱は、不透明感が継続しているが、現時点においては、重大な影響には及ばないと想定。

事業環境認識

成長事業	電力インフラ	電力網の強靱化や再生可能エネルギー、データセンター関連が引き続き好調に推移
	通信（海外）	生成AI需要で海外HSDC（ハイパースケールデータセンター）向けが急拡大
	半導体	半導体向けはAI関連向け需要旺盛で堅調
キャッシュ・カウ事業 (エネルギー・通信)	建設	工事現場の働き方改革や資材価格高騰による需要下押しの懸念があるも底堅い需要を想定
刷新・課題事業	モビリティ	xEV向けはBEV化遅れにより低調。シートヒータは搭載率増加傾向
	産業用	需要低迷が継続。中国向けは価格競争激化

2026年度 増減要因 (前年度比)

売上高増減要因

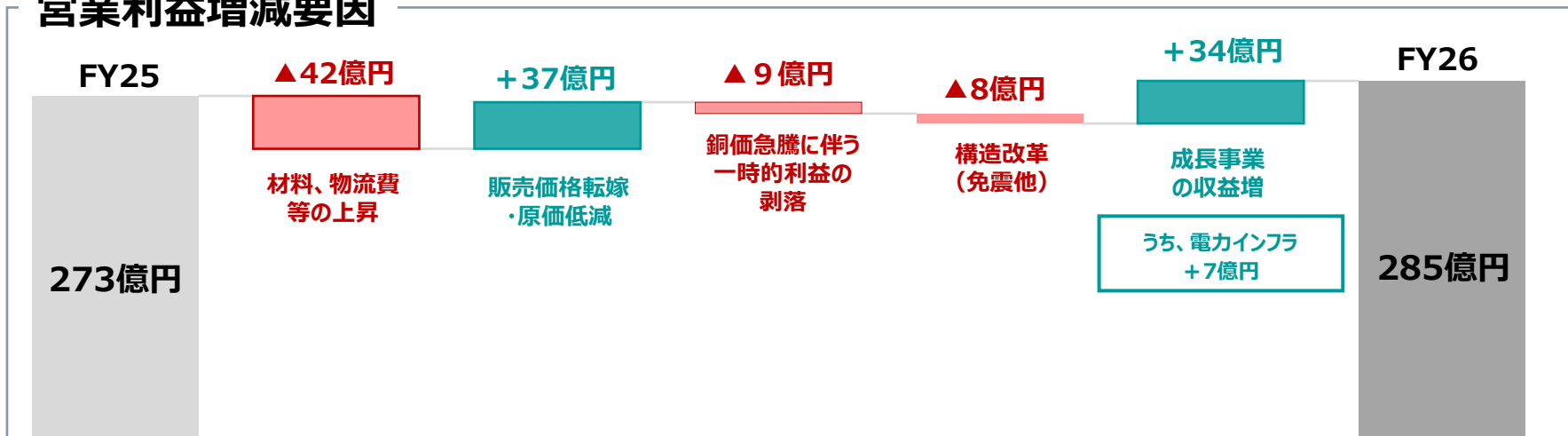


【増減要因】

1. 売上高
銅価格の高騰および成長事業の売上増により**前年度比増収**。

2. 営業利益
中東情勢の影響による材料費上昇は、販売価格転嫁でカバー（既契約分を除く）。銅価急騰による一時的利益は剥落するも、成長事業の収益拡大により**前年度比増益**。

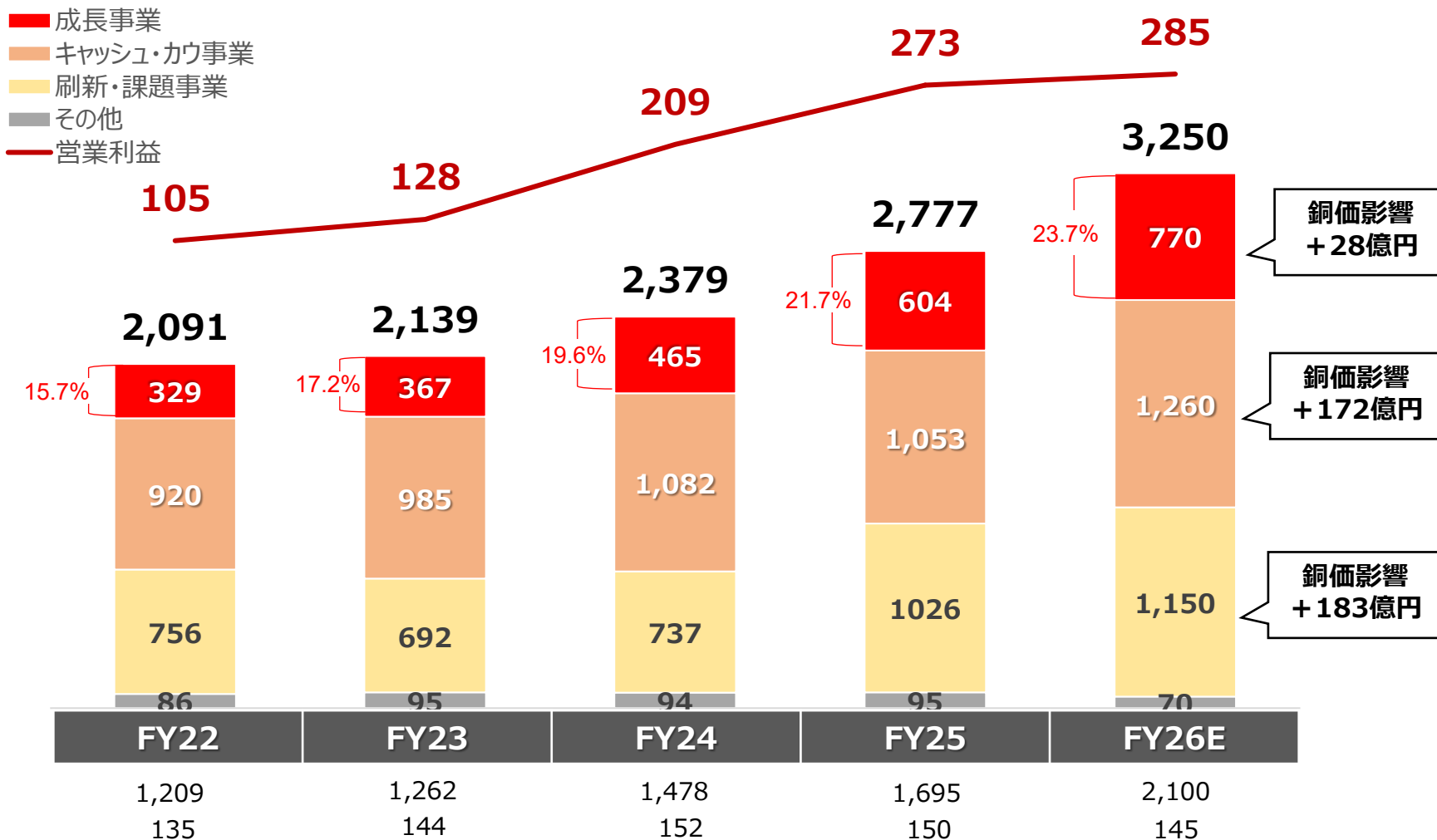
営業利益増減要因



事業計画

売上高・営業利益 推移

単位：億円



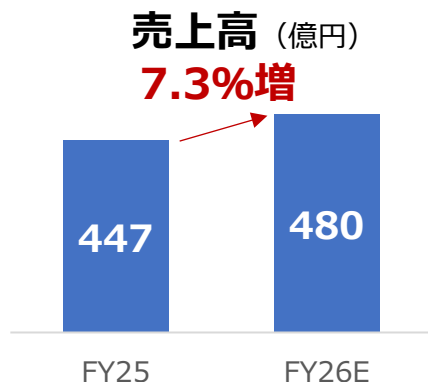
成長事業	電力インフラ 通信（海外） 半導体
キャッシュ・カウ事業	建設 (エネルギー・通信)
刷新・課題事業	モビリティ・産業用
その他	

銅建値 (円/kg)
為替レート (JPY/USD)

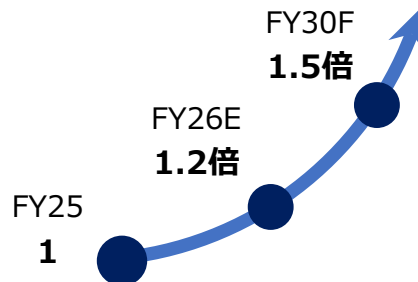
成長事業

2026年度 電力インフラ・通信(海外)・半導体

電力インフラ



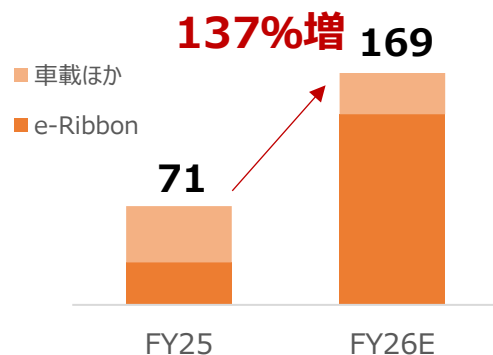
※ FY25の実績を1とした時
【SICONEX®売上計画】



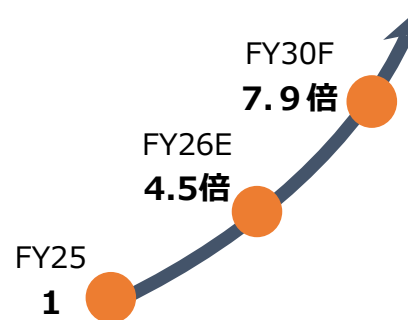
2026年度 成長事業への投資 25億円

- ・2026年第二期増産投資を活かしたシェア拡大
- ・電力発電はSICONEX®のデファクトスタンダード化推進
- ・e-Cable®の適用拡大による施工人員不足へのソリューション

通信(海外)



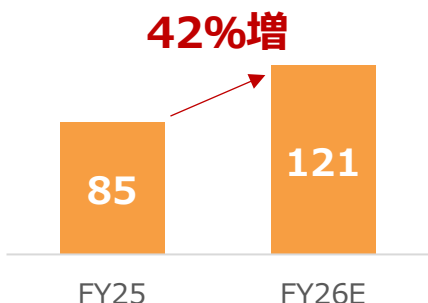
【e-Ribbon®売上計画】



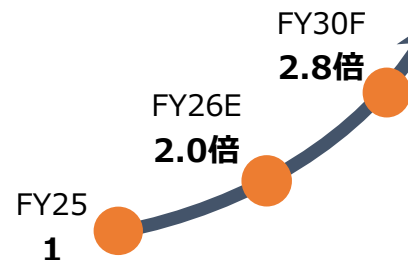
2026年度 成長事業への投資 14億円

- ・国内外での増産投資による生産体制構築
- ・パートナー社との長期契約締結による安定受注の獲得
- ・e-Ribbon®ケーブルの販売拡大による収益性向上

半導体



【コンタクトプローブ 売上計画】



2026年度 成長事業への投資 9億円

- ・コンタクトプローブの増産投資と中国市場における地産地消
- ・高周波同軸ケーブルの半導体検査装置トップメーカーへの採用拡大
- ・アクティブ除振台の次世代モデル開発

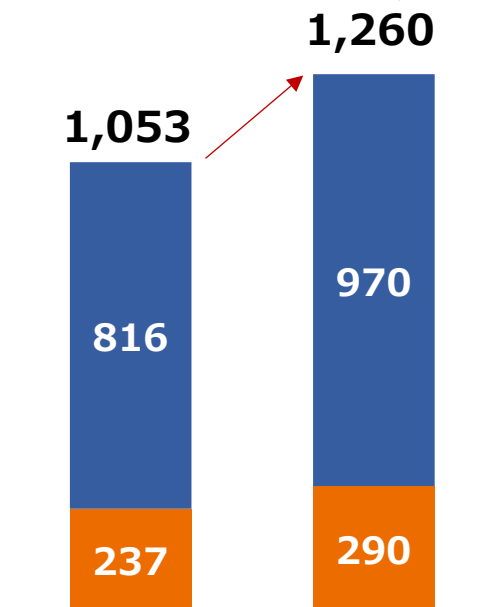
事業の効率化により創出したキャッシュを成長事業へ投下



売上高（億円）

銅価の影響
+172億円

20%増



銅建値
(円/kg)



グループ経営の強化

【意思決定の迅速化】

SFCCを完全子会社化し、
グループ一体化経営の実現

SFCC

【構造改革】

SWCC
汎用光ファイバ
関連製品

富士電線
汎用光ファイバ
関連製品
**汎用光事業
の集約**

物流・業務の効率化

【配送力・物流最適化】

最適配送システム構築による
棚卸資産の圧縮と
リードタイム短縮



【業務効率化・DX】

顧客支援WEBサイト構築
による販売機会創出と
人手不足への対応促進



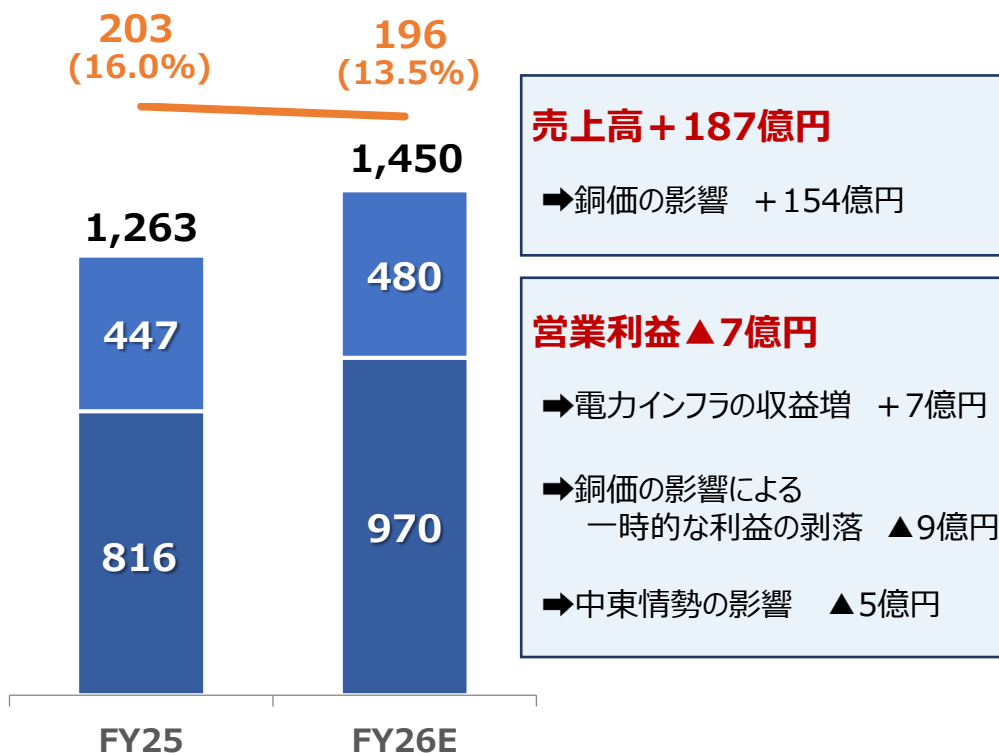
CCC	82日	70日	物流・業務の効率化、売上債権および在庫の回転日数の改善
棚卸回転日数	47日	40日	グループ物流の強化により、在庫の適正化を推進

2026年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

電力インフラ 建設関連
営業利益 () 営業利益率

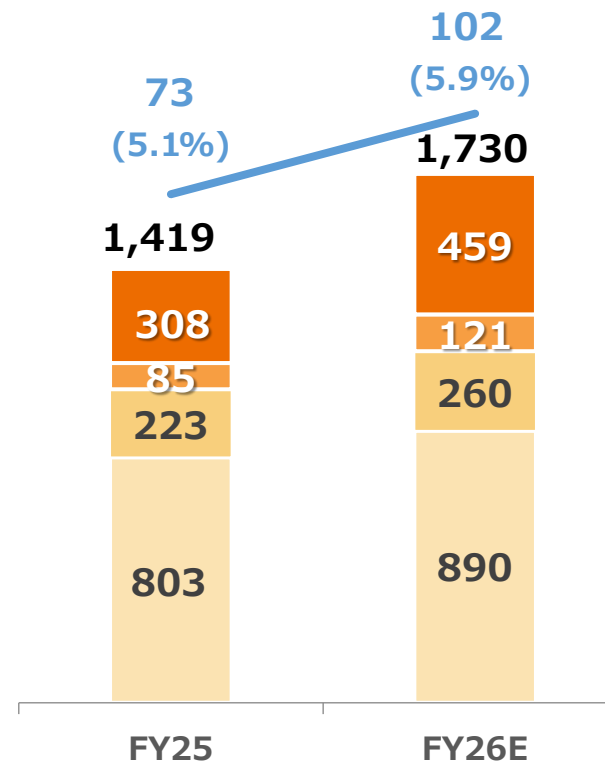
(単位：億円)



通信・コンポーネッツ事業

通信ケーブル 半導体用 モビリティ
産業用 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円)



モビリティ

無酸素銅・平角巻線

- コスト増に対応した価格転嫁と効率的な生産体制の構築
- 高付加価値製品の開発と拡販

ヒータ線

- SWCC仙台事業所からTOTOKU上田工場へ生産拠点を移転統合し、生産効率化を促進

産業用

ワイヤハーネス

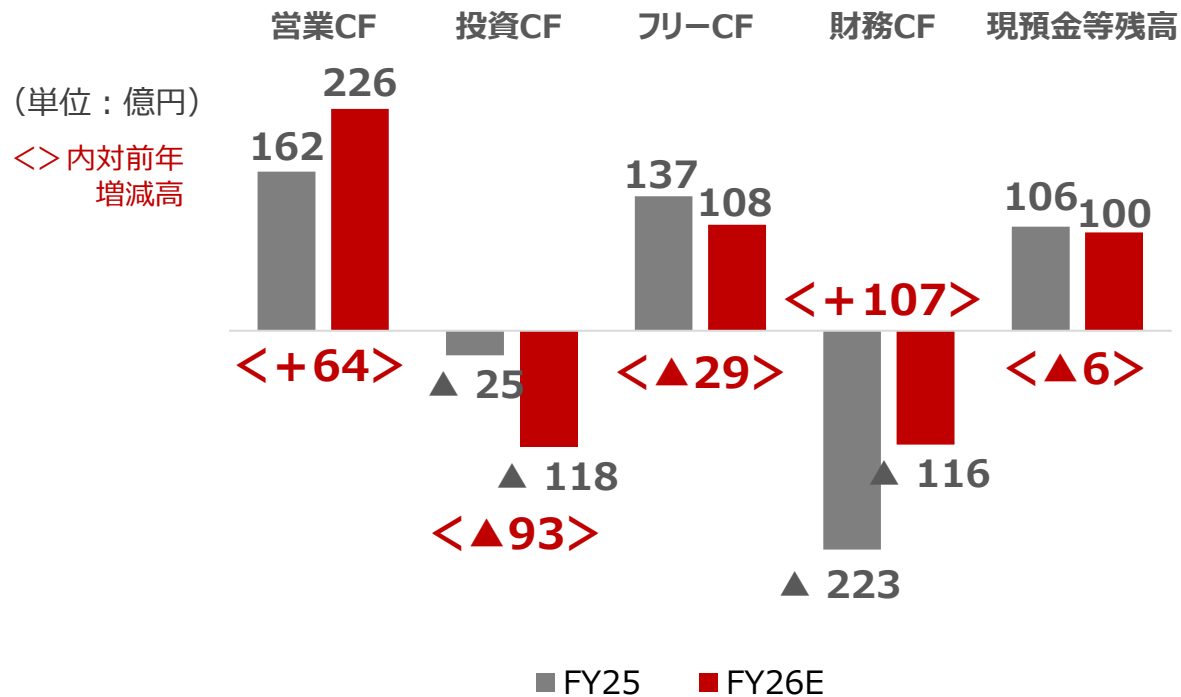
- 海外生産拠点の再編と原価低減

汎用線材・巻線

- 山元工場を閉鎖し外注製造に切り替え、固定費のスリム化等構造改革を進行
- 不採算製品の撤退

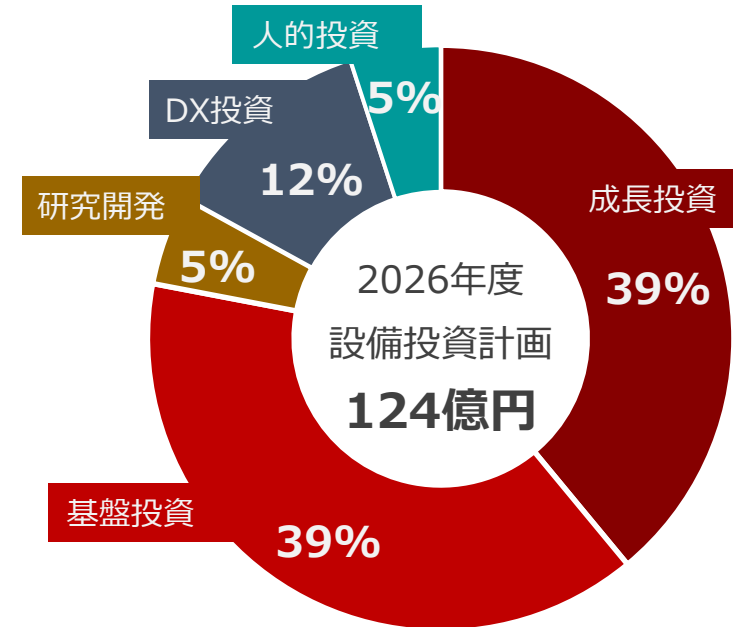
2026年度 連結業績CF予想と設備投資計画

< 連結キャッシュ・フロー >



営業CFは増加するも、成長投資を中心に設備投資が増加となり、FCFは前年度比減。主にFCFを充当し、配当金支払と有利子負債削減を実施。

< 設備投資計画 >



金額別内訳 (対25年度比)

成長投資	48億円	(+36億円)
基盤投資	49億円	(+19億円)
研究開発	6億円	(+3億円)
DX投資	15億円	(+8億円)
人的投資	6億円	(▲13億円)



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。